

キャッシュレスに関する取組み

2019年3月25日
株式会社ゆうちょ銀行

1 キャッシュレス化に向けた世の中の動き

- 政府の「未来投資戦略2018」（18.6.15閣議決定）では、「データの蓄積を促進し、現金処理コストの削減による事業者の生産性向上、消費者の支払いの利便性の向上等を実現する観点から、キャッシュレス社会の実現を目指す」とした上で、2027年までに、キャッシュレス決済比率を倍程度に拡大するとされている。
- こうした中、各種業態からの決済事業への参入や飲食・小売業でのキャッシュレス店舗の導入等、キャッシュレス社会実現に向けた民間企業の動きも活発化している。

キャッシュレス支払が普及しにくい背景

社会 情勢

- 盗難の少なさや治安の良さ
- 現金に対する高い信頼（きれいな紙幣、偽札の少なさ）
- 店舗等のレジの処理が高速かつ正確
- ATMの利便性が高い

実店舗 等

- 端末導入コスト
- 支払サービス事業者を支払う手数料
- 資金化までのタイムラグ

消費者

- キャッシュレス支払に対応していない実店舗の存在
- キャッシュレス支払にまつわる各種不安（浪費の心配、犯罪等への不安）

経済産業省「キャッシュレスビジョン」（18.4）を当行で加工

2 ゆうちよ銀行としてキャッシュレス化に取り組む意義

- 当行は、昨年公表した中期経営計画（新中計）において、「お客さまへ新しいべんり・安心の提供」を、経営の最重要課題とし、とりわけ、決済サービスの利便性向上の取組みに注力
- 「新しいべんり・安心」の第一弾として、幅広い世代に普及しているスマートフォン（スマホ）を活用した決済サービス「**ゆうちよPay**」を**2019年5月から導入**
- ゆうちよPayにより、政策的・社会的要請である「キャッシュレス社会の実現」や顧客ニーズの変化に対応。我が国の成長や生産性向上に積極的に貢献するとともに、お客様に利便性の高い決済サービスを提供。
- また、超低金利下で運用環境が厳しい中、**自己資本を極力使わず、バランスシートを拡大しない新たな収益源**となることを期待。⇒ 新しいビジネスモデルの展開



お客様

「新しいべんり・安心」の提供

- 日常生活に浸透したスマホを使った簡便な決済サービス
- 生活口座として利用頂いているゆうちよ口座がお財布代わりになる



地域社会・企業様

「地域経済の活性化・生産性向上」

- 「翌営業日入金」により、資金サイクル効率化
- 従来のキャッシュレス決済よりも低い手数料
- 専用端末不要

「三方良し」の 新たなビジネスモデル の展開

当行

「新たな収益源」

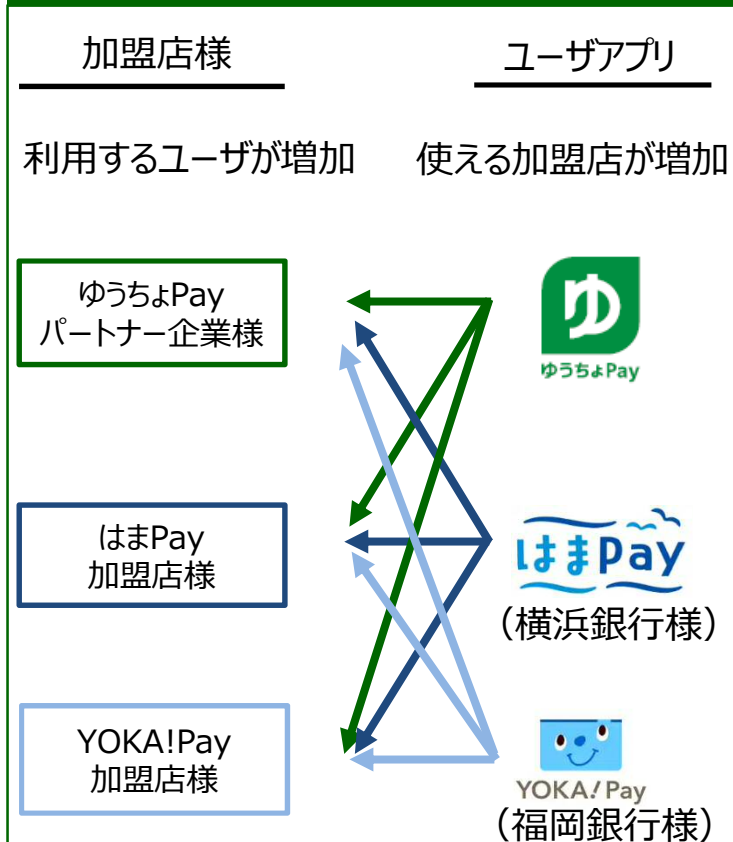
- 自己資本を極力使用しない
- バランスシートを拡大しない
- 他の金融機関との協業による「ネットワーク効果」による収益拡大
- テクノロジーを有するベンチャー企業との協業

3 ゆうちょPayの仕組み

① 他行との連携

- ゆうちょPayでは、同じ決済プラットフォーム（「銀行Pay」）を活用して同様の決済サービスを提供・提供予定の銀行と連携。
- 具体的には、加盟店（パートナー企業）を相互開放することにより、ネットワークを補完し、ユーザ・加盟店双方におけるサービス価値を高めるとともに、参加する各銀行の収益を向上。

加盟店相互開放



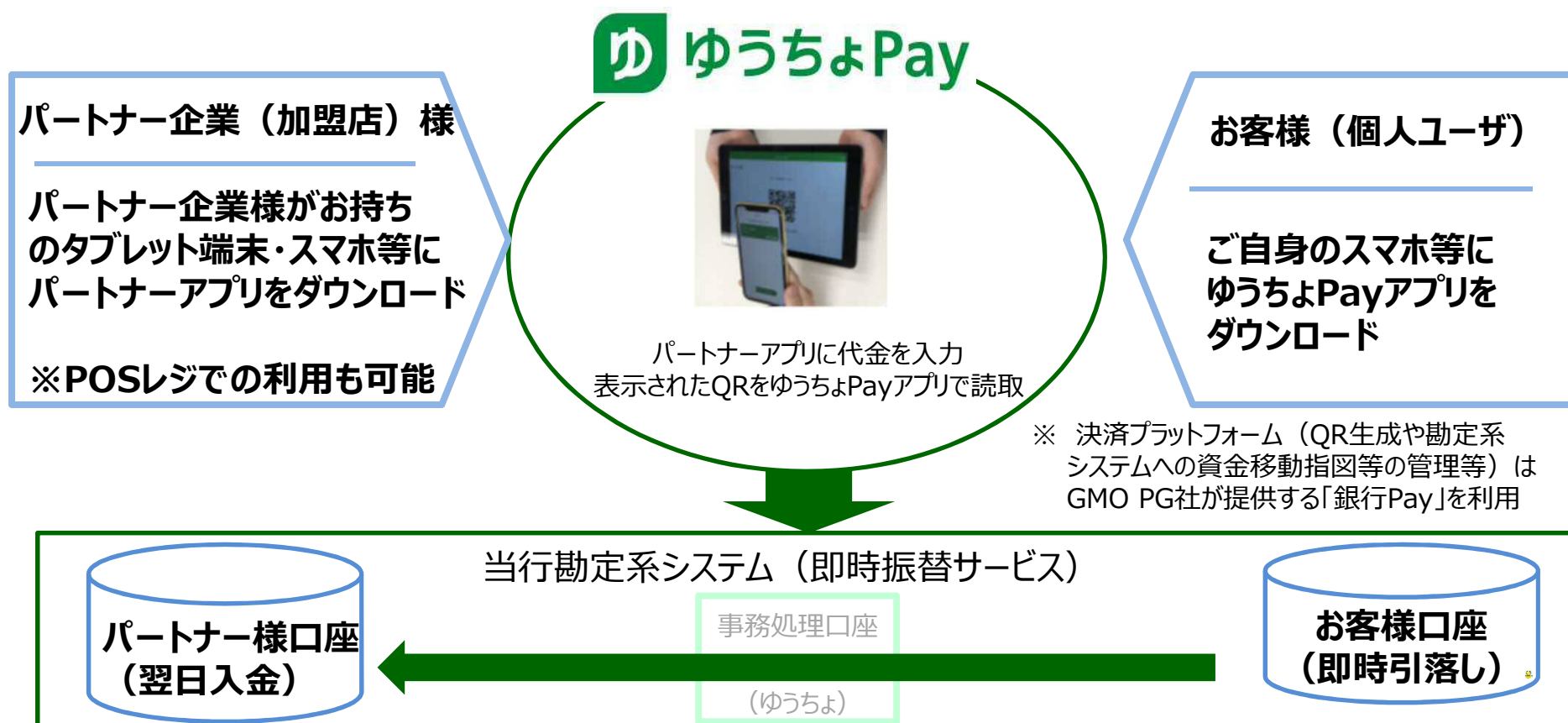
「銀行Pay」として、ネットワークを拡大



3 ゆうちょPayの仕組み

② 決済の基本的な仕組み

- お客様は、ご自身のスマホに、「ゆうちょPayアプリ」（無料）をダウンロードし、アプリにゆうちょ口座を登録することにより、利用が可能
- 利用シーンでは、パートナー企業様がお持ちのタブレット端末等に表示されたQRコードを、お客様のスマホカメラで読み取って頂くことで支払が完了。
- QRコードの読取により、利用者口座からパートナー企業様の口座への資金移動指図が行われ、銀行の勘定系システムにおいて、リアルタイムで振替（お客様口座から即時に支払金額が引き落とされる）



※ ゆうちょPayは、お客様側のアプリに表示されるバーコードをレジのバーコードリーダーで読み取ることにより、POSレジにも対応

4 ゆうちよPayの商品性

- パートナー企業様の観点、お客様の観点、各々で、P1記載のキャッシュレス決済が普及しにくい要因を補う商品性を設定

	ゆうちよPayの特長
パートナー 企業様の 観点	(コスト) ● クレカ対比で相対的に安い決済手数料 ● 専用端末が不要 (売上の入金タイミング) ● 翌営業日の入金
お客様の 観点	(利便性) ● 普段使用しているスマホで利用可能 (利用者の範囲) ● 与信審査がないため利用者の制限なし（未成年・高齢者等も利用可能） (安心感) ● 使い過ぎ防止機能（日次・月次で上限額の設定が可能）があり、安心 ● 口座から即時引落しのため、家計管理がしやすい
当行の 観点	(収益性) ● 費用が小さいため、現時点では、クレジットカードよりも収益性が高い (郵便局ネットワークの活用) ● 審査がなく利用者範囲の制限がないため、プロモーションしやすい

5 ゆうちよPayの利用促進に向けた取り組み

ゆうちよPayの利用促進に向け、以下の各種機能追加や事前プロモーションを実施中

(1) 付加機能の追加

- ① **東急電鉄様、横浜銀行様と連携し、駅の券売機で、キャッシュアウトサービスを提供**
- ② **払込帳票のバーコードをスマホカメラで読み取ることで、いつでもどこでも支払できるサービスを提供**

(2) サービス開始に向け、オンライン・オフラインでの事前のプロモーションを実施中

付加機能の追加

① 東急電鉄様の駅券売機でのキャッシュアウト機能



② 払込帳票のスマホ決済



事前プロモーション

○ オンラインでのプロモーション



SNSを使った周知
(開始 3 週間弱で 2 万フォロワー突破)



参加型動画広告

○ オフラインでのプロモーション



ショッピングセンターでのプロモーションイベント

(参考) ゆうちょ銀行のその他のキャッシュレス決済サービスについて

- 従来から、クレジットカード等の発行により、キャッシュレスの決済手段を提供
 - ・ 民営化以前は、キャッシュカードにクレジットカード会社が提供するクレジット機能を搭載した「共用カード」を提供
 - ・ 民営化後、**2008年4月に、クレジットカード業務の認可を頂いたことから、ゆうちょ銀行自身でクレジットカード「JP BANKカード」を発行開始**
 - ・ また、2017年には、ブランドプリペイドカード「mijica（ミチカ）」を発行開始

	媒体	商品	サービス開始時期	支払時期
従来からの決済	カード	JP BANKカード（クレジットカード）	2008年5月～	後払い
		mijica （ブランドプリペイドカード） ※1/28から、デビット機能を追加	2017年1月～	前払い
新たな決済	スマートフォン （QRコード）	 ゆうちょPay	2019年5月～	即時払い